

# 財団法人日本科学協会

## 平成22年度事業計画書

- 1 一般市民等への学習支援体制の充実
- 2 科学実験事例データベース（DB）の公開
- 3 体感型実験装置群による巡回展の開催
- 4 社会の変化に対応した事業化研究
- 5 時空間表現を駆使した地球科学の可視化開発
- 6 教育・研究図書有効活用プロジェクト
- 7 海洋・船舶科学研究助成
- 8 科学振興のための研究助成
- 9 研究助成の推進
- 10 研究成果発表促進のための助成
- 11 調査研究船を使用した海洋科学学習の開催
- 12 笹川科学研究助成の活性化研究

(1) 事業名「一般市民等への学習支援体制の充実」

(モーターボート競走法制定40周年記念事業特別会計)

① 目的

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されている科学・技術への関心を引き戻す必要があることから、身近で日常的な話題をテーマに、一般市民の学習意欲が高まるような体感型の実験装置群を開発・製作し、展示の用に供する。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 体感型実験装置群の開発及び製作

① 内 容 専門家で組織するワーキンググループ(WG)が、プログラム仕立ての体感型実験装置群を企画開発し、メーカーと協働して巡回展示に適した形式で装置群を製作する。

② テ ー マ 既設の「光」及び「材料化学」WGの2テーマのほかに、今年度から“ヒト”にフォーカスした1テーマを加え、3テーマとする。  
なお、この3テーマにかかる製作資金は、この目的のために日本財団から交付を受けた“体感型実験装置群製作基金”を充てる。

a. 「光」WGは、今までに検討を重ねてきた多くの装置構想の中から、従来にない斬新な展示プログラムを仕立て、装置群を製作し、完成後内覧会を実施する。

b. 「材料化学」WGは、携帯電話を展示のターゲットに、それを構成する主要な機能を装置群で科学的に体感させると同時に、その機能のために開発される素材の世界を元素周期表と関連付けて開発を進める。

c. 「ヒト」WG(仮称)を設置し、今年度より企画開発に着手する。

(ロ) 体感型実験装置群による巡回展の開催

平成19年度に完成した体感型実験装置群(タイトル:自然界の水「台風がやってきた!」)による巡回展の開催は、日本財団の助成事業として計画されたことから事業を別建てにして実施する。

ただし、助成事業の範囲を超えて行う次の項目については、巡回展開催に向けた準備と円滑な運営に必要な環境設定として本事業で行うものとする。

① 展示計画 国内における巡回展は今年度をもって応募の全てを満たすことから終了する。今後は、次年度からの海外展開を視野に入れて、実施可能性を調査する。

② 装置管理 装置群に係る修繕・維持、保管場所の確保及び動産保険の付保等を行う。

ロ. 実施方法

実施計画を策定し、科学・文化振興事業委員会の議を経て実施する。

ハ. 事業の実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
実験装置群の開発・製作		←			→
巡回展の開催		←			→
内覧会の実施				X	

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は、モーターボート競走法制定記念事業である旨を明示するとともに、報道機関、機関紙等を通じて一般的に公表し、広く周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

終 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費 (千円)

総 額 64,700

[うち、50,000は“光”装置群製作費]

(2) 事業名 「科学実験事例データベース（DB）の公開」  
(モーターボート競走法制定40周年記念事業特別会計)

① 目的

「市民に開く“科学の窓”」として学校週5日制施行から公開しているDBはアクセスカウントが極めて高いことから、内容の充実と拡張に努めつつ引き続き公開して科学・技術の普及に資する。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ)「科学実験事例データベース（DB）の公開」

- ① 内 容 科学・技術が身近なものとして親しまれることを目的に、科学・技術に関する実験や話題を次のカテゴリーに分けてホームページで公開する。

イ)「科学実験事例DB」630例の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校でいつでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目（分野、季節、場所、対象年齢、難易度など）を設けて公開する。

また、閲覧者からの質問等に対応するため掲示板を設ける。

ロ)「原体験コラム」120タイトルの公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

ハ)「自然の形と知恵」120タイトルの公開

自然に対する見方や接し方を養うために、自然から学び教えられる話題を中心に、植物の写真約230画像も含め公開する。

- ㊤ 実施方法 本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会（以下「研究会」という）に委託して実施する。

- ㊦ 委託内容 委託の内容は公開情報の追加10例及び情報の充実と修正管理業務。閲覧者からの質問対応業務及び検索ソフトのバージョンアップ対応業務。

- ㊧ DB形式 ファイルメーカーPro

- ㊨ 公開方法 公開は簡易情報（タイトル、リード文、イラスト程度）までを無条件とし、詳細情報の取得には本会への会員登録（無償でパスワードを発行）を条件とする。

- ㊩ 登録会員 会員名簿は研究会で管理し、科学的素養の育成に関連する様々な



(3) 事業名「体感型実験装置群による巡回展の開催」

① 目的

本会で開発・製作したオリジナルで平易な体感型実験装置群による展示会を全国で実施し、科学の学習が驚きや感動を伴う魅力的なものであることを伝え、科学・技術の普及に努める。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

- (イ) 実施場所 展示を希望する科学館・自治体等全国5か所を予定。  
内4か所は公募により計画済み。
- (ロ) 展示条件 本会との共催事業として装置群一式による3週間以上の展示が可能で、開催の予告宣伝および期間中の解説員の確保を含めた運営全般は展示団体の負担を条件とし、装置群の設置・撤収およびこれに付帯する業務は本会負担とする。  
また、必要に応じて本会が単独開催できるものとする。
- (ハ) タイトル 自然界の水「台風がやってきた！」

(ニ) 装置構成 全8実験アイテム(解説ボード付) 13機種14装置

No.	実験アイテム	No.	実験アイテム
1	水の分子模型	2	彩雲・光環発生装置
3	雪・雨粒浮遊実験装置	4	潜熱実験キット
5	台風実体モデル	6	コリオリの力観察装置
	角運動量保存則体感装置		地球の自転
7	気圧体感装置	8	風波発生装置

ロ. 実施の方法

本会の科学・文化振興事業委員会の議を経て既に定めている「巡回展の開催要項」および「展示運営要領」に従って進めるとともに、装置群の設置・撤収およびそれに付帯する実務は、本装置のメーカーと締結している「体感型実験装置群の巡回展に関する包括委託契約(平成19年4月16日締結)」により業務委託して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項 目 期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4	4 月
発 注	X	X	X	X	
展 示	↔	↔	↔	↔	

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を表示するとともに、報道機関、機関紙等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対し周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

終 了 平成23年 4月30日

③ 事業経費 (千円)

総 額 14,000

#### (4) 事業名「社会の変化に対応した事業化研究」

##### ① 目的

人口構造、情報文化、国民の価値基準などが近年劇的に変化し、これに伴い有能な高齢者の活用、Web を活用した若者向け情報の発信、国民と科学・技術者との対話の推進などが新たな課題として浮上してきていることから、事業のモデル化研究を行って新事業の構築を目指す。

##### ② 事業の遂行に関する計画

###### イ. 事業計画の内容

###### (イ)「学術に関する若者向け Web ジャーナルの発行」

###### ① 内容

学術的なテーマを中心に Web を活用した若者向け学術情報 (Web ジャーナル) を試験的に発信し、その実効性等を把握・調査し、将来に向けた事業として検討をする。

###### ② テーマ

編集会議にて全体の構成および公開する内容を企画・検討し、6 編のテーマを作成する。その内 1 編を創刊号として発行する。

###### (ロ)「学術専門家の教育支援モデルの開発」

###### ① 目標

現役を退いた有能な研究者や技術者を地元の教育現場等で活かすシステムを構築し、教育内容や指導方法の質的向上に役立てる。

###### ② モデル開発

積極的な自治体を 1 つ選出し、教育委員会等と連携してモデルとなるプログラムを作成し、試験的実践を通して検証する。

###### (ハ) その他科学動向等の調査研究

社会の変化に応じた科学・技術の普及の為の新しい事業の開発に向けた調査検討等を行う。

###### ロ. 実施の方法

本事業計画に従って、各事業に関わる専門家の協力を得て実施する。



(5) 事業名「時空間表現を駆使した地球科学の可視化開発」

①□ 目的

地球規模の諸問題に立ち向かうには、地球の循環システムを科学的に正しく理解する必要があることから、その代表格である“海洋”と“気象”をユニークな視点で取上げ、そのシステムについて時空間表現を駆使して可視化開発し、一般市民の理解促進に努める。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) “海洋”及び“気象”システムの可視化に係るテーマ

① 海洋

“生活と深く関わる日本の湾（仮題）”

- ・湾の成り立ちから現在に至るまでの変遷
- ・湾内における物理、化学、生物、地学的視点と海中・海底散歩
- ・湾と陸域、大気、外洋との相互作用

② 気象

“空想気象学という視点から気象を学ぶ（仮題）”

- ・もしも日本海が陸地であったら
- ・もしも地球が自転していなかったら
- ・もしも温室効果がなかったら
- ・もしも月がなかったら
- ・もしも地球が立方体であったら

(ロ) 可視化モデルの制作

基礎的な解説や用語集等と併せて、システムにおける諸要素の連関をCGによる動画等を用いて表現する。

なお、海洋については、駿河湾か富山湾のどちらかを題材とする予定である。

(ハ) 公開情報の収集・整理

各テーマに関連する最新の科学知、データ、実物資料及び映像等を必要に応じて収集し、整理する。

ロ. 実施の方法

本事業計画に従って、各事業に関わる専門家の協力を得て実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
企画・編集会議（含部会）		←			→
公開情報の収集		←			→
可視化モデル制作			←		→

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を表示するとともに、報道機関、機関紙等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対し周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

終 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費（千円）

総 額 15,000

(6) 事業名「教育・研究図書有効活用プロジェクト」

① 目的

学術情報・資料の国際共有と相互信頼に基づく国際社会の構築に寄与するため、日本で処分される有益な教育・研究図書を収集・整備のうえアジア近隣諸国の大学・研究機関に寄贈するとともに、関連事業を実施することにより、日本への関心喚起、理解促進、学術・研究の振興、国際社会を牽引する人材の育成を図ることを目的とする。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

日本で収集した図書を中国等の寄贈先と調整のうえ独自に構築した中継寄贈システムにより大規模且つ継続的に寄贈する。また、中国の大学生を対象に「日本知識クイズ大会」、中国全土の青年を対象に日本に関する「作文コンクール」を開催する。さらに、寄贈先の図書館担当者、「クイズ大会」及び「作文コンクール」優勝者等を対象に日本招聘を実施する。

なお、本プロジェクトは、次により事業を遂行する。

(イ) 図書寄贈

- ① 図書の寄贈
- ② 図書の収集
- ③ 図書の収集源及び寄贈先の開拓に関する調査
- ④ 新規関連事業の立案・企画

(ロ) 日本知識クイズ大会

- ① 「笹川杯日本知識クイズ大会」(東北、華東、西南地域)の開催

(ハ) 作文コンクール

- ① 「笹川杯作文コンクール」(中・日両語版)の実施

(ニ) 日本招聘

- ① 図書館担当者等の日本招聘
- ② 「日本知識クイズ大会・作文コンクール」優勝者等の日本招聘

ロ. 実施の方法

当会に委員会を設置して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項 目	期	1/4	2/4	3/4	4/4
図書の寄贈		↔	↔	↔	↔
図書の収集		←→			
「日本知識クイズ大会」の開催(3地域)				XXX	
「作文コンクール」の実施		←→			
「作文コンクール」作品集の出版				X	
図書館担当者等の日本招聘				X	
「クイズ大会・作文コンクール」優勝者等の日本招聘					X
諸調査・研究		←→			
委員会の開催		X		X	

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を表示するとともに、報道機関、機関紙等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対し周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

完 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費 (千円)

総 額 80,000

(7) 事業名「海洋・船舶科学研究助成」

① 目的

超領域科学としての「海洋学」は持続可能な地球社会を構築する上で必須の学問として認知され、さらにその研究を深めることが強く求められていることから、この分野とその関連分野の研究を特に奨励する。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 海洋・船舶科学研究助成

- ㊦ 名称 笹川科学研究助成
- ㊧ 内容 海洋・船舶関係全般にわたる萌芽性、新規性または独創性のある研究内容で、あわせて海洋・船舶科学の将来を担う若手研究者の育成のため、その研究に対して助成を行う。  
単年度内に研究計画が達成され、成果をとりまとめられるものを対象に、一般公募による募集。
- ㊨ 対象領域 「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」で、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）
- ㊩ 申請資格 大学院生あるいは大学等の所属機関で研究活動に従事する者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）
- ㊪ 助成金額 630千円/件（助成予定件数 50件）

(ロ) 助成研究者の奨励

- ㊫ 「研究奨励の会」の開催
  - イ) 対象者 平成22年度笹川科学研究助成者（自由参加）
  - ロ) 開催時期 平成22年4月下旬
- ㊬ 「研究発表会」の開催
  - イ) 対象者 平成22年度笹川科学研究助成者から代表1名
  - ロ) 開催時期 平成23年3月中旬
- ㊭ 「笹川科学研究奨励賞」の表彰
  - イ) 対象者 平成21年度助成者から2名以内
  - ロ) 表彰内容 賞状および賞金各100千円
  - ハ) 表彰時期 「研究奨励の会」開催時

ロ. 実施の方法

本会に委員会を設置して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
助成金交付の決定		X			
研究の完了確認					
研究奨励の会開催		X			
研究発表会の開催					X
研究奨励賞の表彰		X			
委員会					1回

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対して周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

完 了 平成23年 3月 31日

③ 事業経費 (千円)

総 額 31,500

(8) 事業名「科学振興のための研究助成」

① 目的

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励することにより科学研究の振興を図る。また様々な実践の場で指導者が直面する諸問題について、解決のための科学的な研究を奨励し、実践を通じてその分野の活性化と発展に寄与する。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 科学振興のための研究助成

「笹川科学研究助成」として研究が単年度で終了し、成果がとりまとめられるものを対象に、一般公募による募集

① 「一般科学研究」部門

イ) 内容 萌芽性、新規性または独創性のある研究内容で、他からの研究助成が受け難い研究を全国的に掘り起こすとともに、意欲に満ち、優れた研究を行う若手研究者の育成のため、その研究に対して助成を行う。

ロ) 対象領域 人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）

ハ) 申請資格 大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）

ニ) 助成金額 約600千円/件（助成予定件数 250件）

② 「実践研究」部門

イ) 内容 教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場（現場）における社会的要請の高い研究への支援と、現場の質的向上を目指して助成を行う。

ロ) 対象領域 現場で抱える諸問題解決のために行い、その成果を現場に活かすとともに、現場を通して広くその分野の活性化・発展に貢献することを目的とする研究

ハ) 申請資格 現場で専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、スクールカウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など

ニ) 助成金額 約330千円/件（助成予定件数 30件）

(ロ) 助成研究者の奨励

① 「研究奨励の会」の開催

- イ) 対象者 平成22年度笹川科学研究助成者（自由参加）
- ロ) 開催時期 平成22年4月下旬
- ハ) 内容 助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流
- ニ) 参加者 来賓、指導教官、関係者、当該研究者など約400名

② 「研究発表会」の開催

- イ) 対象者 平成22年度笹川科学研究助成者から各領域別代表1名の計7名
- ロ) 開催時期 平成23年3月中旬
- ハ) 内容 人文・社会系、数物・工学系、化学系、生物系、複合系、海洋・船舶科学系および実践系の研究成果の発表と質疑応答、懇親会での交流
- ニ) 参加者 本会の理事・評議員・顧問、指導教官、過去の受助成研究者など約80名

③ 「笹川科学研究奨励賞」の表彰

- イ) 対象者 平成21年度助成者から各領域2名以内の計14名以内
- ロ) 賞の趣旨 単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。
- ハ) 選考 研究領域別選考委員会で選考基準に基づき選考
- ニ) 表彰内容 賞状および賞金各100千円
- ホ) 表彰時期 「研究奨励の会」開催時

ロ. 実施の方法

本会に委員会を設置して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
助成金交付の決定		X			
研究の完了確認				←————→	
研究奨励の会開催		X			
研究発表会の開催					X
研究奨励賞の表彰		X			
委員会					8回

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対して周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

完 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費（千円）

総 額 165,400

(9) 事業名「研究助成の推進」

① 目的

研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 平成23年度研究助成計画策定

- ④ 平成23年度「笹川科学研究助成」および「海洋・船舶科学研究助成」の一般公募および選考の方法について、委員会で検討のうえ決定し、募集要項、選考方針等を作成する。
- ⑤ 平成23年度「笹川科学研究助成」および「海洋・船舶科学研究助成」について、募集ならびに申請受付を行う。
- ⑥ 平成23年度「笹川科学研究助成」および「海洋・船舶科学研究助成」の申請内容について、委員会において学術領域別の学識経験者による研究計画内容の評価を行い、助成対象者を選定し平成23年度の研究助成計画を作成する。

(ロ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理

- ④ 笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等の研究成果を整備し、保管する。

(ハ) 研究助成実績に関する資料の整備

「笹川科学研究助成」および「海洋・船舶科学研究助成」に係る実績について分析し、統計資料等を整備する。

ロ. 実施の方法

本会に委員会を設置して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
21 年度研究報告書の整備		←→			
23 年度募集要項作成		←→			
23 年度募集周知			←→		
23 年度応募受付				←→	
選考方針作成と選考				←→	
研究助成計画原案の作成					X
研究助成実績資料の整備		←→			←→
事業・選考委員会		1 回		9 回	1 回

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は、競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対して周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成 22 年 4 月 1 日

完 了 平成 23 年 3 月 31 日

③ 事業経費（千円）

総 額 20,000

(10) 事業名「研究成果発表促進のための助成」

① 目的

研究成果の海外発表の機会を提供することにより研究者の業績を広く周知すると同時に、内外の研究者との有用な情報交換が出来ることで、研究の発展と研究者の資質向上に貢献する。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 研究成果発表促進のための助成

- ㊦ 名称 海外発表促進助成
- ㊧ 内容 海外研究集会（学会等を含む）において、研究の成果発表を行う研究者に対し必要な経費の助成を行う。
- ㊨ 申請資格 笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）
- ㊩ 助成金額 200千円/件（助成予定件数 65件）
- ㊪ 募集方法 指定公募
- ㊫ 実施内容

- イ) 平成22年度「海外発表促進助成」第1期助成および第2期から第4期助成計画の決定・助成
- ロ) 平成23年度「海外発表促進助成」の募集および第1期助成計画の決定

(ロ) 学会情報データベースの整備および公開

研究者の活動の便宜に供するため、学会情報データベースを整備し、公開する。

ロ. 実施の方法

本事業計画に従って、笹川科学研究助成事業委員会の議を経て実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
平成22年度分					
公 募 (受付期間)		↔	↔	↔	
決 定		X	X	X	
発表報告書		←————→			
助成金の精算		←————→			
平成23年度分					
公 募 (受付期間)					↔
決 定					X
委員会					1回

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに関係者に対して周知徹底させる。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

完 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費 (千円)

総 額 14,000

(11) 事業名「調査研究船を使用した海洋科学体験学習の開催」

① 目的

次代を担う若者に「海洋学」の有用性を理解させ関心を持たせることは、地球環境問題を考察する人材の育成には不可欠であるという視点から、研究船による体験学習を実施してその人材の確保と研修の重要性を周知しようとするものである。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ) 海洋科学体験型研修の実施

- ① 催事名 研究船で海を学ぼう
- ② 予定航路 東京湾～清水港
- ③ 開催場所 東京都江東区、静岡県静岡市（東海大学清水校舎、三保研修館、望星丸）
- ④ 開催時期 平成22年8月
- ⑤ 対象 高校生60名・学校教諭等20名
- ⑥ 募集・選考 主に高校生を対象に、海に関わる作文を広く全国から公募し、その優秀者を招聘する。
- ⑦ 研修内容 船舶を利用した海洋実習（気象・海象観測、プランクトン採取、採泥等）及び陸上における採取試料の分析など  
なお、研修期間は、6泊7日（船上研修2泊3日）を予定
- ⑧ 普及活動 マスコミによる報道並びに学会での研修成果発表を通し、社会一般に海洋科学の理解と啓発を行う。

(ロ) 他国領海内研修の可能性調査

- ① 海外研究者等の同行乗船による打合せ
- ② 海外研究者等との現地での打合せ

ロ. 実施の方法

東海大学及び日本海洋学会の共催を得て、当会に委員会を設置して実施する。

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1/4	2/4	3/4	4/4
プログラム策定		←→			
公募		←→			
選考・決定		←→			
研修実施			←→		
普及活動				←→	
他国領海内研修の可能性調査			←→		
委員会等（3回）		1回	1回	1回	

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は、競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対して周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 3月 1日

完 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費 (千円)

総 額 16,600

(12) 事業名「笹川科学研究助成の活性化研究」

① 目的

研究の飛躍が認められる段階での、過去に笹川科学研究助成を受けた研究者（笹川助成研究者）に対する時宜を得た助成や支援のあり方などを検証するため、数例の試験的助成を行い、実効性のある笹川科学研究助成事業体系の構築を目指す。

② 事業の遂行に関する計画

イ. 事業計画の内容

(イ)「笹川助成研究者のフォローアップ支援」

① 外国人研究者訪日支援

笹川助成研究者を対象に、日本の研究機関へ招へいし、研究の完結に向けた支援を行う。

イ) 短期部門

- a. 申請資格 本国において大学・研究機関等に所属し、日本の研究機関への受け入れが認められている外国人研究者
- b. 受入期間 14日以上60日以内
- c. 助成内容 渡航旅費、滞在費、事務代行料

ロ) 長期部門

- a. 申請資格 本国において大学・研究機関等に所属し、日本の研究機関への受け入れが認められている外国人研究者
- b. 受入期間 2カ月（61日）以上6カ月以内
- c. 助成内容 渡航旅費、滞在費、事務代行料

② フォローアップ支援に対する実態調査

研究機関に赴き、研究者支援の実態についてヒアリング調査等を行う。

ロ. 実施の方法

本事業計画に従って、学識経験者の協力を得て実施する

ハ. 事業実施の予定表

項目	期	1 / 4	2 / 4	3 / 4	4 / 4
募集		←→			
選考			←→		
研究の実施				←→	←→
完了報告				←→	←→

ニ. 事業成果の公表の方法

この事業は競艇公益資金による日本財団の助成金を受けて実施した旨を明示するとともに、報道機関、機関誌等を通じて、一般に公表し、機会あるごとに利用者、関係者に対して周知徹底を図る。

ホ. 事業の開始及び完了の時期

開 始 平成22年 4月 1日

完 了 平成23年 3月31日

③ 事業経費（千円）

総 額 4,000